

尺 琴
八 古
音 流
譜
解 說

吉 印
村 藤
敦 嘯
編 虎
先生
校
閱

267
164

074462-000-6

特67-981

琴古流尺八音譜解説

吉村 敦 / 編

M44

CEI-1732



緒言

拾數年以前に於て琴古流尺八の微々たる事做履の如く之を願
 者無かりき然るに近年勃然として興り山間の僻地に於ても其
 音彬々として耳朶を襲ふされど單に玩耽に過ぎずして呂律を
 し眞に尺八の本性を發せしむる者幾何ありや誠に遺憾之極也是
 れ決河河源障之以手と異なるなし若し完璧の樂譜あらむか實に發
 蒙より易きなり余此の欠を補はんとして茲に數歲偶ま元興國寺
 尺八取締役印藤嘯虎居士の獎に依り無似を顧ず本編を草す若し
 諸士の同伴とならば編者の満足是より大なるはなし編者元より
 短才遺洩も亦是あらん讀者幸に之を指教せられん事を乞ふ。

明治
44. 8. 7
内交

明治四拾四年七月下旬

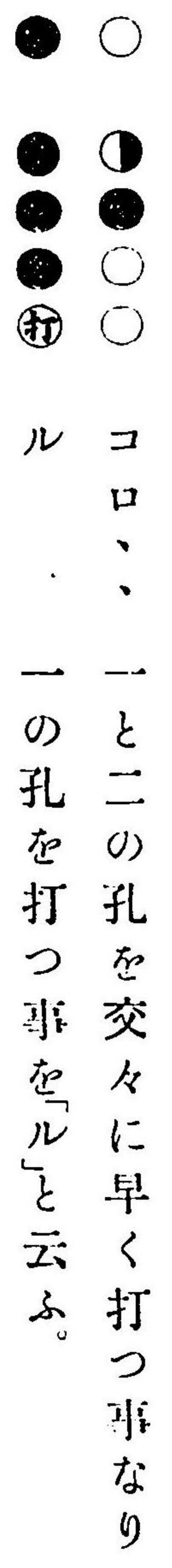
編者誌す

半音譜附「メリ」「カル」



メリとは顎を内方に下げて吹く事を云ひ主として半音の時に用ふ故に半音の時は傍に「メリ」と記す此際孔を半開にして「沈りて吹き」及他の「ハ」の半音は其儘「メリ」に吹き其他少しく「沈る」を「中メリ」大きく「メル」を「大メリ」と云ふ「カリ」は「メリ」の反對にして顎を擧げ息を太く吹くなり

特殊音譜



(ハラロ) ハーア、ロと云ふが如くに吹くなり。

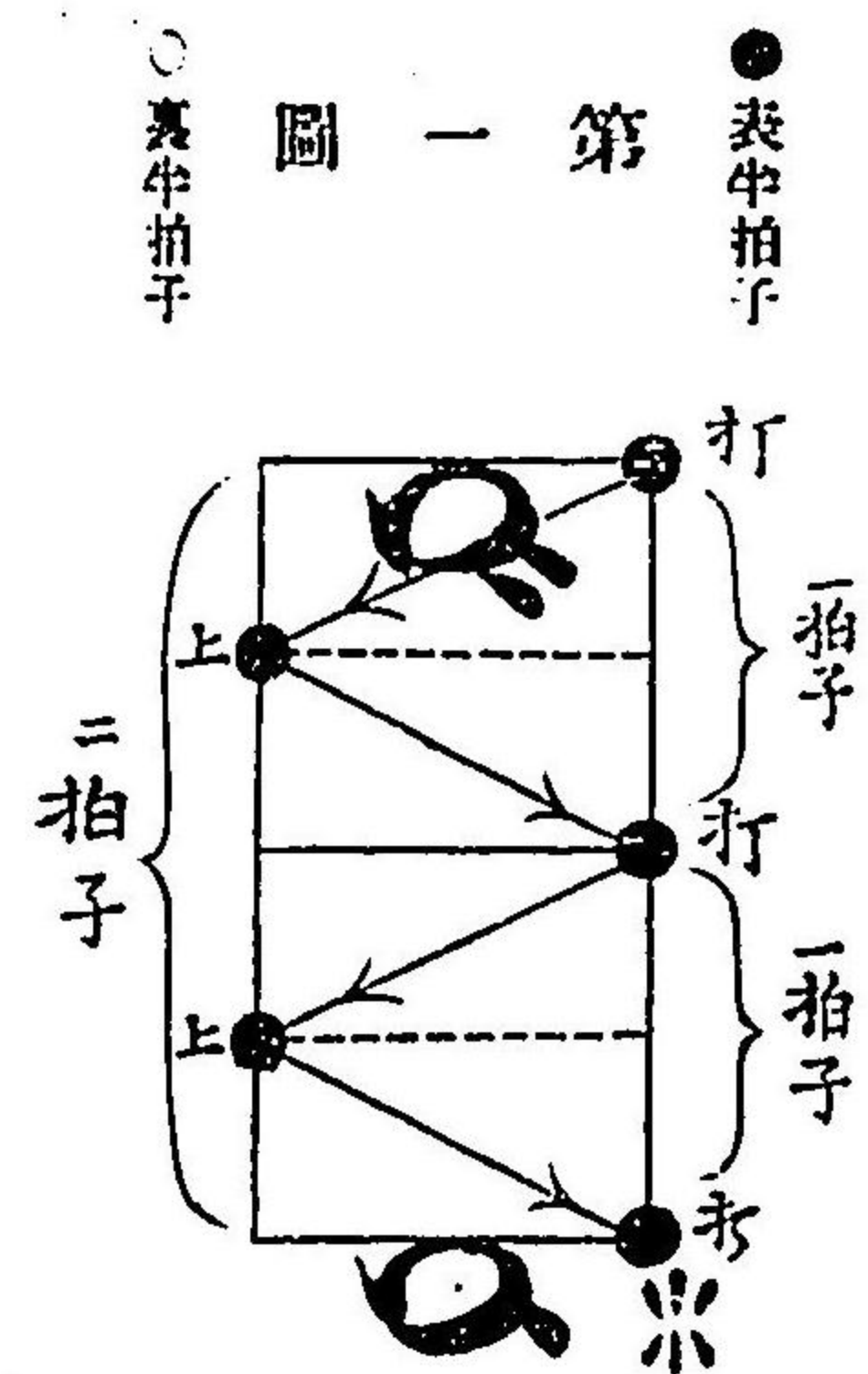
ハ ○ ● ● ● 初め「メリ」より出で次第に「カル」になし「ア」の吹き
 ア ○ ● ● ● 方になすなり「ラ」を吹く時は「メリ」に吹くと同時
 ラ ○ ● ● ● に二の孔を打つなり「ラ」と「ロ」の間は瞬間に吹く
 ロ ● ● ● ● なり「ロ」の音は普通音に吹くべし。
 甲(カン) 高音の事にして口唇を締め息を強く吹き入るべし。
 呂(乙) 低音の事にして息を太く弱く吹くべし。

拍子及び拍子の執り方

○柱時計の振子が一方より他側に至る運動を一ト振りと定むる時は其の二タ振りの時間を以て一拍子に相當するものとす。従つて其の一ト振りの時間は一拍子の半分即ち半拍子に相當す。今便宜上振子が右側より左側に行き再び右側に歸る迄の二タ振

りを一拍子と定む、而して右側より左側に行く一ト振を表半拍子とし左側より右側に来る一ト振りを裏半拍子とす。
 一拍子の圖解 正方形を一拍子とし中央の點線を以て之れを各半拍子に二分す、其上半部を表半拍子、下半部を裏半拍子の長さとする。

但し矢の方向は振子の運動の方向を示す。



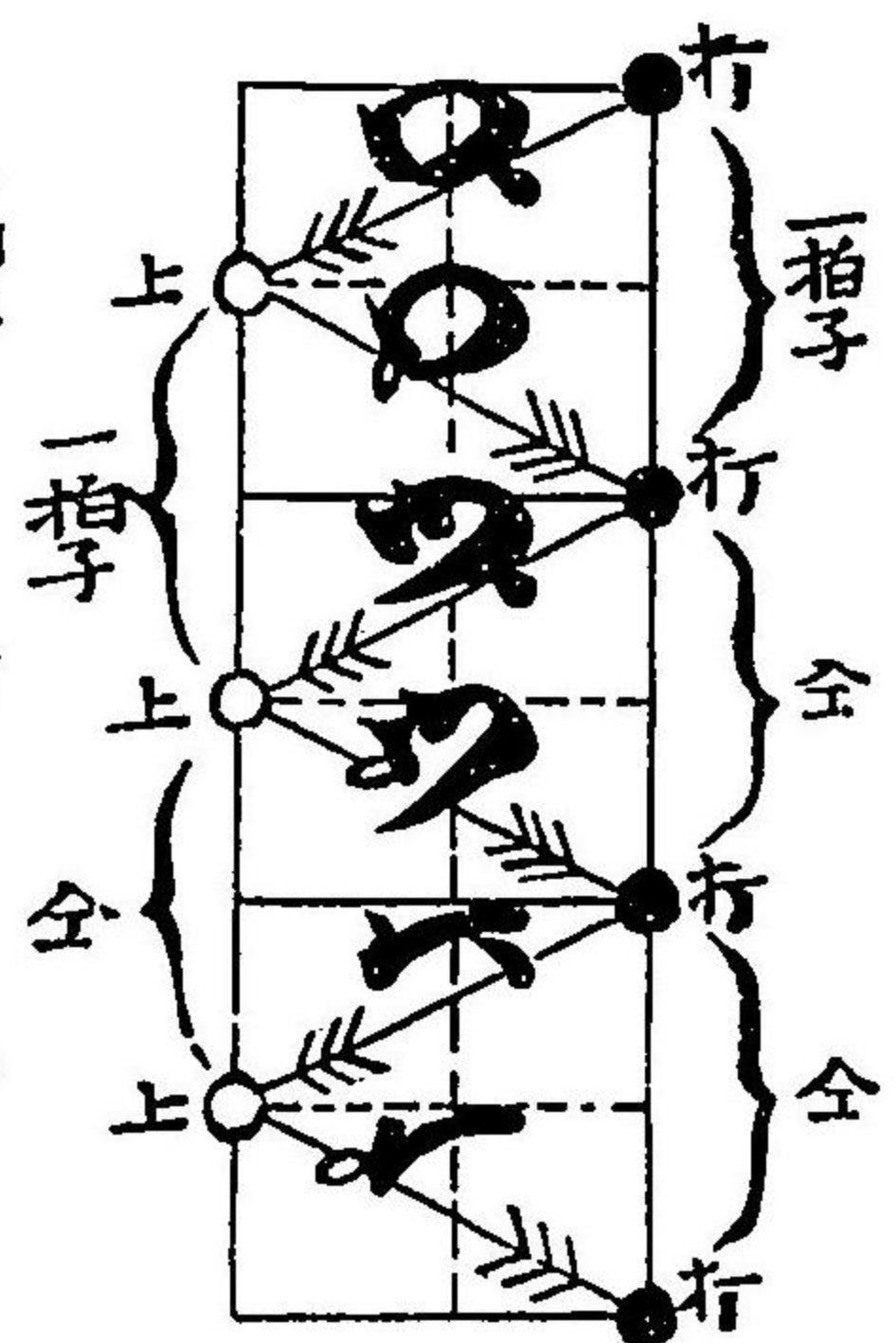
此れに依りて一拍子は表拍子及び裏拍子の兩拍子より成り一トの表拍子より次の表拍子迄で、或は一トの裏拍子より次の裏拍子迄の間が一拍子となる事を會得せらるべし。

拍子の執り方。此の拍子を執らんには振子が右側に来りし時右手にて膝を打ち左側に行く時其の手を舉げ再び右側に来りし時、

前同様膝を打つべし。

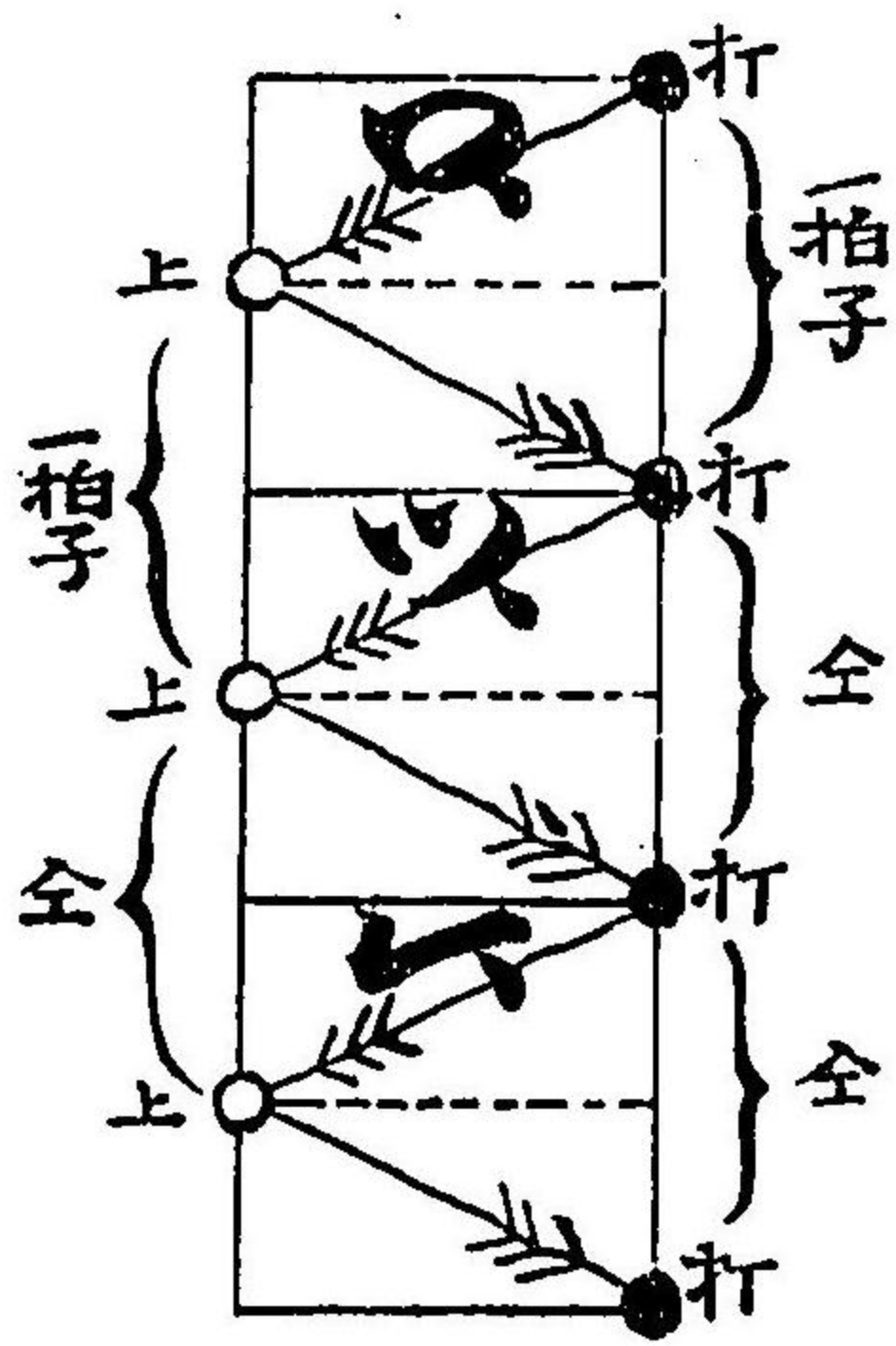
斯る方法に依り容易に正しく拍子を執る事を得。但し打ちたる時は表拍子に上げたる時は裏拍子に相當する者とす。

圖二 第 二 表 裏



注意 此の方法勝手悪き時は最初の内左
 右兩手を交互に打ちて試るべし
 二圖に於て口、ツ、レ、は表拍子に當る所より出で、裏拍子には音の發せざる場合に於て口、ツ、レ、は各一拍子の時間を有す。

圖三 第 三 表 裏



三圖に表拍子及び裏拍子共に音を有し、一拍子の内に二音存するを以て各音皆半拍子の時間を有す。

以上の説明に依り略々理解せられしならん。裏拍子より初まる場合に於ても別に異りたる事なければ略す事とせり。

此の表拍子と裏拍子とを樂譜上に現はすには皆朱點を以て現はす。而して右側にあるを表拍子とし、左側にあるを裏拍子とす。

拍子の時間(間拍子の事)

記號

拍子數

(洋樂記號と對稱)

○ (表拍子に表はれたる場合) 四拍子

全音符



○ (同前) 二拍子

二分音符



○ (同前) 一拍子

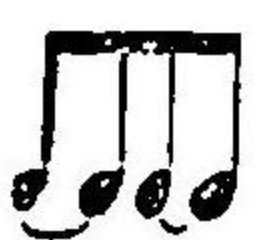
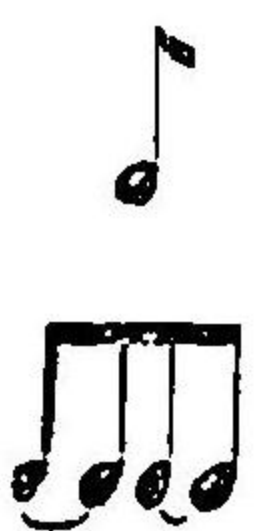
四分音符



右は表拍子に現はれたる場合のみなり。裏拍子の時も是れと同理なり、只拍子數の記號が左側に來るのみなり。

○ 半拍子

八分音符



表裏兩拍子に連續して現はるゝを以て各音は半拍子づゝの間を有す。斯る際は常に中央部に一線を引き音の連絡を表示す。



四半拍子

十六分音符



表裏兩拍子各二音宛を有するが故に一、拍子の間に四個の音を有す。即ち各音皆四分の一拍子の間を有し前の八分音符の二分の一となるを以て中央に更に一線を加ふ。



八半拍子

卅二分音符



前の半分即ち一拍子中に八個の音を有す。此場合に三線を引く。

半拍子之加はる場合

一、拍子半

(一)	○	○	○
(二)	○	○	○

(表拍子ニ於ケル場合)
(裏拍子ニ於ケル場合)

「ヨイ」とは琴、三絃にて一拍子半に相當する場合に用ゆる掛聲なるが故に尺八の音譜に於て此れを用ひて一拍子半を表す記號とす。

兩方共に初めの口許りにては、二拍子の形なれど次に來る口は皆上と反對の拍子より出づ即ち(一)にては上が表拍子なるに下は裏拍子より出づ (二)にては上が裏拍子なるに下は表拍子より出づ 是は二拍子の時間が経過せぬ内に半拍子だけ速く出づる事を示すものにして即ち一拍子半の間を現はす事となる、

(第四圖は、一拍子半比較圖なる第五圖は、二拍子の場合なり) 第四圖に於て初め一拍子を打ち次に第二の表拍子を打ちたる所にて停止する時は一拍子半となるなり、此の打ちたる手を擧ぐる際換言すれば第二の裏拍子を執る時に下の口か出づ即ち第四圖の*印

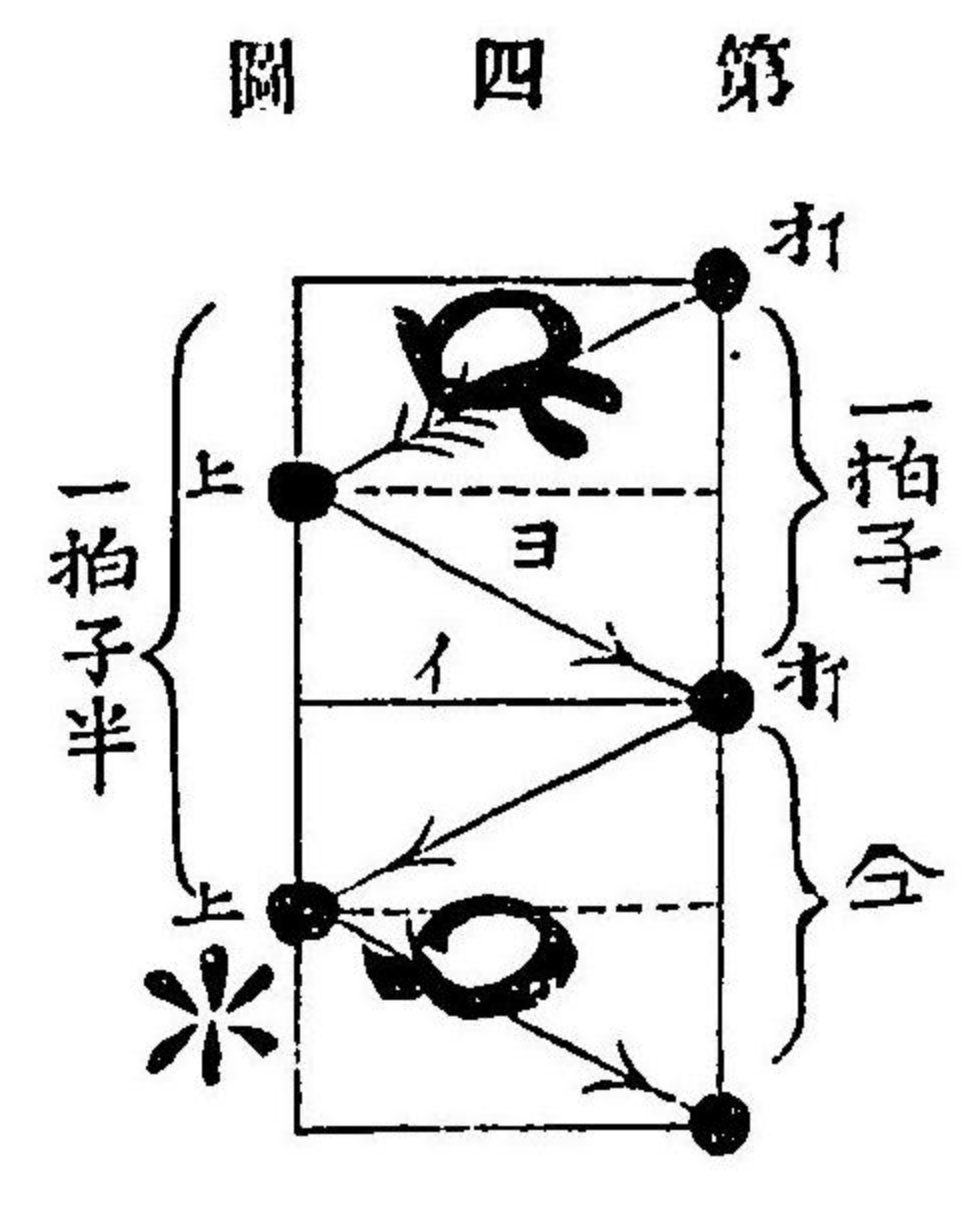
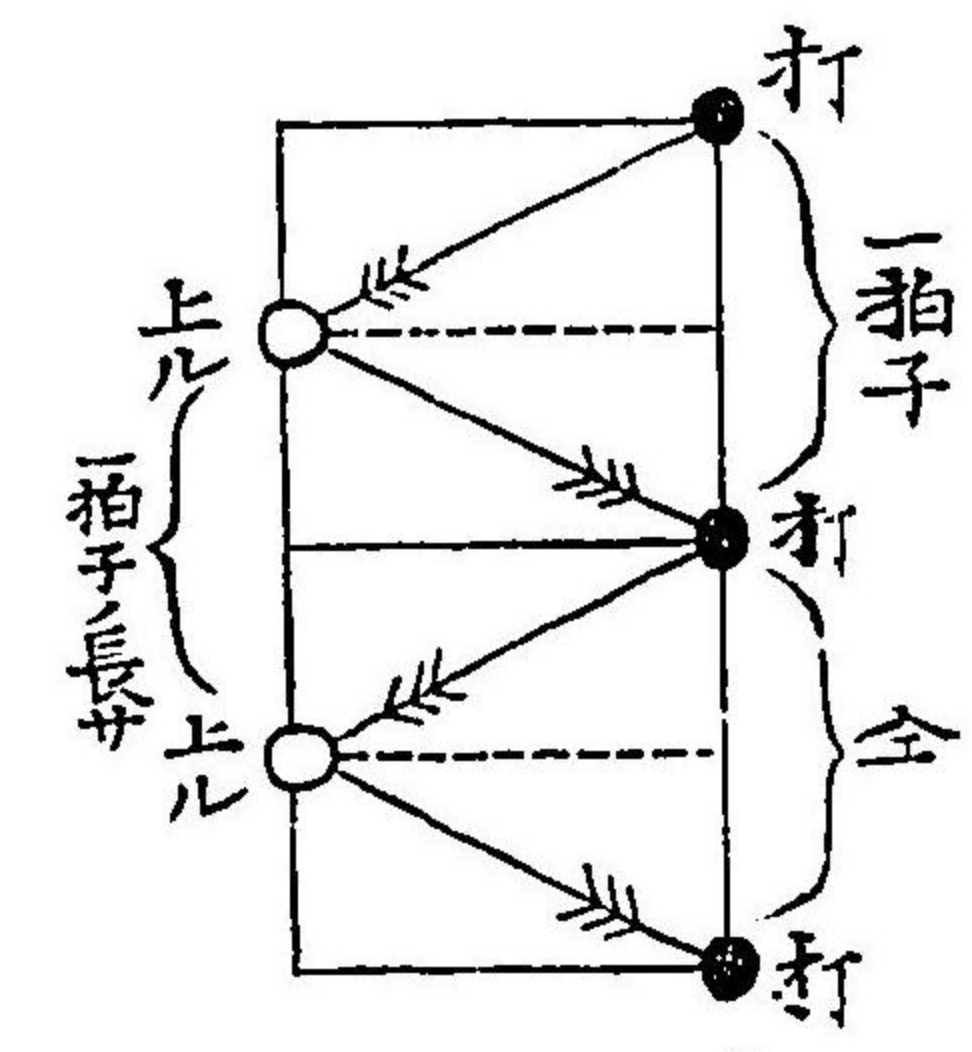


圖 五 第



の所より次の口か發するを以て上の口の間拍子か一拍子半となる理なり比較せる第五圖にては、*印より次の音が發する故

二拍子なり。裏拍子に於ける一拍子半の場合も亦同様なり。

其の他の拍子記號

の如く記せる場合には△印の在る所は裏拍子の來るべき位置を示すと同時に四半拍子の間を示すものなり

此場合には△印は裏拍子○印は表拍子の位置を

は以下皆「カン」音に吹くを示す「呂」は以下皆「呂」音に吹くを示す（口の上の「ツ」は多の場合「メリ」なり然らざる者は傍に「メリ」「カリ」と記す、曲譜中朱記せる譜は入手の事を示す又掛合の際は尺八にて吹く方を示すなり。

運指法及び吹奏に就き

同一音の重なる時、一定の法に従ひ左記の如くに指を働かすべし
 ロ、ツ、は二の孔、レ、チ、ウ、ハ、ハ、ハ、ハ、は皆四の孔を
 リ、ヒ、は五の孔、ハ、ハ、ハ、ハ、は三の孔を軽く打つべし。

尺八吹奏の際は端然正座し下腹に力を込め虚心平氣以て曲に對すべし。

尺八は絃器とは異ひ音を連続的に出し得る者にて、殊に合奏の際には此特徴によりて絃音の切れくゝなるを綴り一層興味を加ふ

るものなるが、今若し琴三絃同様に其休止する所に従つて休止し断片的に吹奏せば全く管音たる自己の特色を失ひ優美の點を無くすべし、故に出來得る限り常に音色を連続して出す様心掛くべし

尙尺八の長さには種々の定めあれども當今は一尺八寸及び一尺九寸を多く用ゆ又尺八は勿論琴古流の製作にして調子の正しきものに限るべし又琴三絃等と合奏する時其調子の執り方は各樂譜の初めに記入せり。

FK-09

●既刊目錄

箏曲の部	八代獅子	定價金參拾錢
手替八代獅子	六段之調	定價金參拾錢
雲井六段之調	千鳥の曲	定價金廿五錢
長唄越後獅子		定價金參拾錢

●近刊豫告

箏曲の部	櫻	狩山流
松	風	山田流
壽	競	全
小	曲	全
春	の	生田流
督		
の		
長唄の部		
進		
鶴沙		
勧		
帳		
繼汲		

明治四十四年七月廿五日印刷 定價
明治四十四年八月一日發行 貳拾五錢

東京市本郷區千駄木百八十五番地
著作兼 發行所 吉村 敦

東京市本橋區四丁目十六番地
印刷所 青木印刷所

東京市京橋區竹川町十四番地

日本樂器製造

發行所 株式 共益商社

東京市神田區錦町三丁目三番地

發賣所 嵩山房